

2008 年度

科目名 尺度構成法	対象学科・学年 人間社3回生	担当者 井上 徹
授業テーマ 心理尺度のつくり方を学ぶ		
授業の概要と目標 尺度項目の作成、予備調査の結果分析を通して、尺度構成の方法と手順を、理解することを目標とする。尺度構成の3つの代表的な方法を、統計パッケージによる統計分析を交えて、経験し理解していく。まずそれぞれの方法における留意点を解説し、受講生自らが項目を作成し、予備的な調査を行う。予備調査のデータを、統計パッケージを用いていろいろな分析にかけ、各自が作成した尺度項目の信頼性、妥当性を考察していく。		
評価方法 出席と授業中のレポートを重視する。出席（30％）＋レポート（70％）		
テキスト 実験とテスト＝心理学の基礎（実習編）	著者 心理実験指導研究会	出版社 培風館
参考書 心理尺度のつくり方	著者 村上宣寛	出版社 北大路書房
授業スケジュール・内容 1. 尺度構成についての基本的考え方 2. 尺度の信頼性と妥当性 3. サーストン法（1） サーストン法の解説と項目作成 4. サーストン法（2） 調査実施、コーディング 5. サーストン法（3） 項目の精選と尺度値の設定 6. サーストン法（4） 因子分析による因子的妥当性 7. リッカート法（1） リッカート法の解説と項目の作成 8. リッカート法（2） 調査実施、コーディング 9. リッカート法（3） 項目分析1－GP分析 10. リッカート法（4） 項目分析2－因子分析 11. ガットマン法（1） ガットマン法の解説と項目作成 12. ガットマン法（2） 調査実施、コーディング 13. ガットマン法（3） SP表を用いた結果分析 14. ガットマン法（4） 尺度項目の内的整合性 15. 尺度構成法についてのまとめ		